

第2学年 国語科学習指導案

1. 単元 お話を楽しもう
「スーホの白い馬」 関連教材「ずうっと、ずっと、大すきだよ」

2. 指導の考え方

○ 子どもの実態

本学年の子どもたちは、これまでに、物語文「ふきのとう」「スイミー」「お手紙」の学習では、挿し絵と叙述をつないで場面の様子を想像する力、人物の言動を表す叙述から、人物の様子や気持ちを読み取る力を身に付け、説明文「たんぼぼのちえ」「サンゴの海の生きものたち」では、事柄の順序に気を付けて読む力を身に付けてきている。

しかし、生活経験や体験したこと個人差があり、叙述を基に人物の様子や気持ちについて想像を広げながら読み取ることがまだ十分ではない。

「関連づけて読む」活動については、「たんぼぼのちえ」で生まれた「あちらこちらにさいている他の植物にもちえがあるのか。」という課題をもって、関連教材「すみれとあり」を比べて読むことにより、「あちらこちらにさいている他の植物にも、なかまをふやすためのちえがある。」という共通点を明らかにしている。この活動を通して、植物がなかまをふやすためには、たくさん種をつくったり、飛ばしたり、自然や他の生き物の力を借りたりしているというような植物のちえについての見方・考え方を深めることができるようになってきている。また、「お手紙」で生まれた「他のお話でも、かえるくんはがまくんのために何かしているのかな。がまくんは何かしていないのかな。」という課題をもって、シリーズ本の中から関連教材「おはなし」を重ねて読むことによって、「親友」という共通点を明らかにしている。この活動を通して、親友とは一方向ではなく、互いに相手のことを自分のことのように一生懸命考えることと学び、「親友」についての見方・考え方を深めることができるようになってきている。

○ 教材の価値・特質

教科書教材は、貧しくて寂しい身の上だけれども、たくましくて心の優しいスーホと、スーホに大切に育てられ、その思いにこたえる白馬との心の結びつきを描いた物語である。本作品は、2年生にとってはかなりの長文であるが、少年スーホと白馬との出会い、愛情の深まり、とのさまの理不尽な仕打ちによって強引に白馬と引き離されたスーホの悲しみ、白馬の死…と、起伏に富んだ展開になっているため、子どもたちは物語に引き込まれながら読み進めることができる。またそれぞれの場面で、挿し絵を手がかりにスーホと白馬のしたことに着目しながら想像を広げて読み進めることで、ずっとお互いを思い合っている気持ちをとらえることができる。と考える。

文章構成の特質としては、冒頭6行は全体の前書きが書かれており、この前書き部分があることで物語全体は「馬頭琴」という楽器の由来話となっていることが分かる。幼いスーホと白馬が出会い、一緒に暮していく中で深い心の結びつきができ、白馬が死んでからも一緒にいられる方法として馬頭琴ができたことが描かれている。そして、できあがった楽器がモンゴル中に広まったことを述べて閉じている。

文章表現の特質としては、「とぶようにかける」「たきのようにながれおちる」などの比喻や、「たちふさがる」などの行動を表す複合動詞、「日は一日一日とすぎていきました。」「月日はとぶようにすぎていきました。」といった時を表す言葉も多く用いられている。したがって、叙述から人物の様子や気持ちを読み取る力や、時間の経過を考えて読む力を身に付けさせるのに適した教材であるといえる。

関連教材「ずうっと、ずっと、大すきだよ」は、「ぼく」が「エルフ」をいかに愛していたかが回想の形をとって展開されている話で、前学年で一度学習をしている。「ずうっと、ずっと、大好きだよ。」を、「スーホの白い馬」でもった観点を基に読むことで、ぼくがエルフといっしょに過ごしていく中で、エルフを思う気持ちが、まるで兄弟のようにだんだん強くなっていくことが分かる。そして、人と動物でも、いつまでも一緒にいたいと思うほどの心の結びつきができるということについて考えさせるのに適した教材である。

○ 指導にあたって 読みのめあて

題名「スーホの白い馬」の「の」に着目し、白い馬は、スーホが飼っている大切な馬であることを読み取らせる。冒頭には馬頭琴という楽器については書かれているが、「スーホ」や「白い馬」が登場しないことから、スーホの白い馬と馬頭琴がどのようにつながるのかを

読み深め・確かめる読みのめあてを生み出す。

予見

馬頭琴ができたのには、どんなお話があったのかということについて、挿し絵やスーホの言動を基に場面ごとにまとめさせる。それらをつないで馬頭琴ができたわけを話し合い、学級の予見を方向付ける。

学習計画

予見の方向付けをもとに、場面ごとにもっと知りたいことやよく分からないことを出し合い、スーホと白馬のお互いを思い合う様子や気持ちを読み確かめることを確認する。そして、だれのどんな様子を中心に確かめるのか学習計画を立てる。

読み深め・確かめ

スーホや白馬の言動を表す言葉を挿し絵とつないだり、類義語と比べて読んだりしながら、スーホと白馬のお互いを思い合う気持ちを読み深め・確かめる。

読み・読み方のまとめ

題名にもどって、お互いに離ればなれになっても、白馬が死んでしまった後もお互いを思い、一緒にいたいという思いから馬頭琴が生まれたという読みのまとめをする。さらに、「スーホの白い馬」のような人と動物との心の結びつきが、他の話でもあるのか考えさせ、関連教材への導入を図る。また、時間を表す言葉や様子を表す言葉の読み方やたとえを読む読み方、似た言葉と比べて読む読み方についてまとめる。

「関連づけて読む」活動

「ずうっと、ずっと、大すきだよ」を、「スーホの白い馬」と「関連づけて読む」ことによって、一緒に成長し、死んでもなお一緒にいたいと思う人と動物の心の結びつきについての見方・考え方を深めることができるようにする。

3. 単元の目標

- 生まれたばかりの時から心をこめて世話をし、死んでもなお一緒にいたいと願う、スーホと白馬のお互いを思う気持ちを読み取ることができる。
- 時を表す言葉に気を付けて場面の順序を読む読み方や、比喩や複合動詞に着目して場面や人物の様子を想像しながら読む読み方を身に付けることができる。
- 一緒に成長し、死んでもなお一緒にいたいと思う「スーホの白い馬」と「ずうっと、ずっと、大すきだよ」と「関連づけて読む」ことによって、人と動物の心の結びつきについての見方・考え方を深めることができる。

4. 学習計画 (全15時間)

過程	時	主な学習活動と内容	指導上の留意点 (◎基礎・基本の重点、※「関連づけて読む」活動に関して)
読 み の め あ て	1	1 題名から考えたことや、疑問に思ったことを出し合う。 ○ これまでに学習した「の」がついていた物語を振り返り、「の」の意味を考えさせること 2 題名で考えたこととつないで冒頭を読み、読みのめあてを生み出す。 ○ 馬頭琴ができるまでの話から、スーホの白い馬のことが分かるところをとらえること	○ 「の」の働きに着目させることで、スーホが飼っている馬であることを読み取らせる。 ○ 冒頭にはスーホや白い馬が出てきていないことと、馬頭琴という楽器ができたのにはわけがあるということから、スーホの白い馬が馬頭琴ができたわけに関係があることに気付かせる。
		[読みのめあて] モンゴルに馬頭琴というがっきができたのには、どんな話があるのだろう。	
予 見	2	1 読みのめあてに沿って全文を読み通し、予見を書きまとめる。	○ 時を表す言葉や挿し絵、スーホの言動を手がかりにして大まかなあらすじをとらえさせる。
	3	2 個人の予見を交流し、予見を方向付ける。	
		ある日、スーホが子馬を連れて帰って心をこめて世話をした。あるばん、白馬がおおかみの前に立ちふさがって 必死 に羊をまもった。ある年の春、スーホが競馬にでたとき、とのさまに白馬をとり上げら	

		<p>れてとても悲しんだ。ある日のこと、白馬がとのさまから逃げたが、矢で打たれた。そのばん、スーホのところに白馬が帰ってきたが、死んでしまった。あるばん、白馬がゆめに出てきて馬頭琴の作り方を教えてスーホが馬頭琴を作った、という話。</p> <p>[予見の方向]</p> <p>スーホと白馬のお互いを思い合い、いつまでも一緒にいたいという思いから馬頭琴ができた。</p>
学 習 計 画	4 5	<p>1 予見の共通点や相違点、曖昧な点等を明らかにし、読み確かめていく計画を立てる。</p> <p>○ 各場面で、よく分からないらないことや、もっとくわしく知りたいことを出し合い、場面ごとに読み確かめることを明らかにする。</p> <p>[学習計画]</p> <p>① 子馬をつれてきて世話をしたスーホの姿から白馬に対する思いを読み深める。</p> <p>② おおかみの前に立ちふさがる白馬を見て、その白馬に兄弟のように話しかけるスーホの姿から白馬に対する思いを読み深める。</p> <p>③ かつとなってとのさまに言いかえす姿や、白馬をとり上げられた後のスーホの姿から、白馬に対する思いを読み深める。</p> <p>④ とのさまのところから逃げ出す白馬の姿から、スーホに対する白馬の思いを読み深める。</p> <p>⑤ ひどいきずをうけてもスーホのところへ帰ってきた白馬の矢をぬくスーホの姿から白馬に対する思いを読み深める。</p> <p>⑥ ゆめに出てきた白馬の姿と馬頭琴を作ったスーホの姿から、白馬に対する思いを読み深める。</p>
読 み 深 め ・ 確 か め	6	<p>1 スーホが心をこめて世話をした時の、白馬に対する思いを読んでいくことを確認する。</p> <p>2 ある日、子馬を連れてきたときのスーホの気持ちを考える。</p> <p>○ 子馬を連れてきたわけをにこにこしながら話していることから、喜んでいる気持ちを読み取ること</p> <p>3 白馬を連れてきた時から、スーホが白馬とどのような毎日を過ごしていたのか考える。</p> <p>○ 毎日毎日一生懸命世話をし、大事にしていることをとらえること</p> <p>4 スーホの白馬に対する思いをまとめる。</p> <p>○ 掲示している学習計画を振り返り、本時で学習する内容を確認させる。</p> <p>○ わけを話しているスーホの気持ちを、「にこにこしながら」という叙述と挿し絵をつないで考えさせる。</p> <p>◎ 「一日一日と」という叙述から、いつもいっしょに、一日一日大切に過ごしていたことを読み取らせる。</p> <p>○ 毎日、どんな世話をしていたのか考えることでスーホの思いを読み取らせる。</p> <p>○ 板書で整理したことをもとに、今日くわしくなったスーホの思いを書きまとめさせる。</p> <p>今日のスーホはね、生まれたばかりの白馬のせわをして、毎日毎日、体をなでたり、体をきれいにしたり、話しかけたりしていっしょにすごしているうちに、白馬のことに一生けんめいになっていったんだよ。</p>
	7	<p>1 スーホが、おおかみと闘う白馬を見た時の白馬に対する思いを読んでいくことを確認する。</p> <p>2 おおかみと闘う白馬の様子について話し合う。</p> <p>○ 自分の身をもって、必死に大きなおおかみに立ち向かおうとしている様子を読み取ること</p> <p>3 白馬のそばにかけより話しかける時の、スーホの思いを話し合う。</p> <p>○ スーホの飼っていたひつじを必死に守っていた白馬への思いをとらえること</p> <p>4 スーホの白馬に対する思いをまとめる。</p> <p>○ 前時を振り返り、学習計画をもとに本時で学習する内容を確認させる。</p> <p>○ 「立ちふさがって」「ひっしに」という叙述から、スーホのために懸命にひつじを守ったことに気付かせる。</p> <p>◎ 「これから先、どんなときでも、ぼくはおまえといっしょだよ。」という叙述から、白馬のことを兄弟のように思うスーホの思いを読み取らせる。</p> <p>今日のスーホはね、じぶんのいのちがあぶないかもしれないのに、おおかみの前でひ</p>

っしになってたたかっていた白馬のようすを見たんだよ。そこで、じぶんのいのちにかえてもスーホの生活にひつようなひつじをまもってくれていた思いが分かり、白馬のことをまるで兄弟のように大事に思うようになっていったんだよ。

- 8
- 1 けい馬の大会で、白馬と引き離された時のスーホの白馬に対する思いを讀んでいくことを確認する。
 - 2 白馬をとられたスーホの悲しみについて話し合う。
 - 大切に育て、兄弟のように思っていた白馬が自分のそばからいなくなった時の思いを讀み取る
 - 3 スーホの白馬に対する思いをまとめる。

- かつとなったスーホの態度から、白馬のことをとても大切に思っていることを讀み取らせる。
- ◎ 「どうしてもきえません。」「そればかり考えて」という叙述から、スーホの悲しみの深さを讀み取らせる。
- これまで一緒に暮らしてきたこととつないでスーホの思いを考えさせる。

今日のスーホはね、生まれてすぐからいっしょにくらしてきて、きょうだいのように大事に思っていた白馬をみがってなどのさまにとられたんだよ。そして、ぶじにくらしているのか、せわをしてもらっているのか、心ばいで心ばいでたまらなくて、その心ばいな思いは、だんだんと大きくなっていったんだよ。

- 9
- 1 とのさまのところから逃げ出した時の白馬の様子をくわしく讀んでいくことを確認する。
 - 2 ある日、とのさまから逃げ出したときのスーホの様子を話し合う。
 - (1) 逃げ出すまでの白馬の思いを考える。
 - スーホとの暮らしと、とのさまとの暮らしを比べ、白馬の気持ちをとらえること
 - (2) 白馬が走りつづけた時の白馬の気持ちを考える。
 - 傷を負っても走りつづける白馬の気持ちを考えること
 - 3 本時の白馬の様子を書きまとめる。

- 自分勝手などのさまから逃げる白馬の様子から、スーホへの思いを讀み取らせる。
- ◎ 心をこめてせわをしてくれたスーホとの生活を想像して、白馬の思いを考えさせる。
- ◎ 「つぎつぎに矢が～」 「それでも、～」 という叙述と、これまでに学習した場面をつないで読むことで、白馬の思いを考えさせる。

今日の白馬はね、スーホとくらしていたときとぜんぜんちがいが、みがってなことばかりするととのさまのところからにげだしたんだよ。体に何本も矢がささっていたくても、くるしくてもとまらずに、ぜったいにつかまらないように、力いっぱいにげていったんだよ。

- 10
- 【
○
組
本
時
】
- 1 ひどい傷を受けながら帰ってきた時の、スーホの白馬に対する思いを讀んでいくことを確認する。
 - 2 帰ってきた白馬の様子を話し合う。
 - 苦しい状態で長い時間走ってきたことから、白馬のスーホへの思いを讀み取る
 - 3 ひどい傷を受けている白馬を何とかしたいと思うスーホの思いについて話し合う。
 - 歯を食いしばりながら矢を抜き、「ぼくの白馬」というスーホの様子や思いを讀み取る
 - 4 スーホの白馬に対する思いをまとめる。

- 前時に学習した走り続けた白馬の様子とつないでスーホの思いを讀み取らせる。
- 「矢が何本も」「たきのように」や「走って、走って、」などの叙述から、白馬のひどい様子や、必死にスーホの所へもどってきた事を考えさせる。
- ◎ 白馬の様子から、どんな思いで矢をぬいているのか吹き出しに書かせ、スーホにとって白馬が大切な存在であることに気付かせる。
- 板書で整理したことをもとに、スーホの思いを書きまとめさせる。

今日のスーホはね、何日もはなれていた白馬がかえってきたけれど、体じゅうに何本も矢がささったり、あせがどんだんとながれているようすを見ておどろいたんだよ。矢をぬきながら、大事な白馬がひどくきずついていることや、だんだんよわっていくこと

		<p>がとてもくやしくてかなしい気持ちでいっぱいだったんだよ。</p>	
	11	<p>1 馬頭琴を作ったときのスーホの白馬に対する思いを読んでいくことを確認する。</p> <p>2 スーホのかなしさとかやしきについて話し合う。</p> <p>○ 大事に思っていた白馬との永遠のわかれの悲しさや、白馬を殺されたくやしき等を振り返ること</p> <p>3 スーホが馬頭琴を作ったわけを考える。</p> <p>○ 夢で言った白馬の言葉から、夢中で組み立てたわけを読み取ること</p> <p>4 馬頭琴をつくったスーホの白馬に対する思いをまとめる。</p>	<p>○ これまでに学習したことを想起し、何が悲しいのか、何がくやしいのか考えさせる。</p> <p>◎ いつも白馬といっしょにいたスーホの死んでもなお白馬と一緒にいたいという思いを考えさせる。</p> <p>○ 板書で整理したことをもとに、スーホの思いを書きまとめさせる。</p>
		<p>今日のスーホはね、生まれてすぐからいっしょにくらしていたかぞくのように大事な白馬がしんでしまって、とてもかなしんでいるんだよ。日にちが立つほど白馬とすごしてきたことを思い出してかなしくてたまらなくなったり、くやしくなったりして、毎日、白馬のことばかり考えていたんだよ。そして、しんでからもずっといっしょにいられるほうほうが馬頭琴をつくることだったんだよ。それほど、白馬といっしょにいたいという思いが強かったんだよ。</p>	
読み・読み方のまとめ	12	<p>1 これまでの読みをもとに、読みのまとめをする。</p> <p>2 二人の関係について考える。</p> <p>○ スーホと白馬と一緒に暮らしていくうちに、兄弟のような関係になっていったことをとらえること</p>	<p>○ 馬頭琴ができたわけをまとめ、馬頭琴がモンゴル中に広まったわけを考える。</p> <p>※ スーホと白馬には、とても強い心の結びつきがあり、他の話でも心の結びつきがあるのかという問題意識をもたせる。</p>
	13	<p>3 学習を振り返り、読み方のまとめをする。</p> <p>○ 時を表す言葉を読む</p> <p>○ たとえを読む</p> <p>○ 似た言葉と比べて読む</p>	<p>○ 学習した読み方を振り返り、「読み方の種」としてまとめる。これからの学習に生かせるようにする。</p>
関連づけて読む	14	<p>1 関連教材を読み、人と動物との心の結びつきについて考えていくことを確認する。</p>	<p>※ 「大きくなっていくまで」「毎日の暮らし」「何かあったときの思い」「死んだ時の思い」という観点をもって、教材文を読ませる。</p>
	15	<p>2 心の結びつきが分かる挿し絵を選ぶ。</p> <p>○ いつもそばにいて兄弟のようにしている挿し絵をえらぶこと</p> <p>3 心の結びつきが、叙述の中にどのように書かれているのか考える。</p> <p>○ ぼくはエルフと常に一緒にいて楽しんだり、心配したりしている様子を読み取ること</p> <p>4 人と動物の心の結びつきについて考える。</p> <p>○ 「スーホの白い馬」と「ずうっと、ずっと、大すきだよ」を比べて読みながら、人と動物の心の結びつきを読み取ること</p>	<p>○ 一緒に何かをして、兄弟のように過ごしていることに気付かせる。</p> <p>○ 「いっしょに」「まいばん」などの言葉を基に、ぼくとエルフと一緒に大きくなっていく中で、心の結びつきが強くなっていることを読み取らせる。</p> <p>※ 2つの教材を読み比べることで、人と動物でも兄弟のような心の結びつきがあることを読み取ることができる。</p>
		<p>「スーホの白い馬」で、スーホが白馬のことを大切に思っているように、「ずうっと、ずっと、大すきだよ」でも、ぼくとエルフが小さいころからいっしょにくらしてきて、いっしょにねたり、ごはんを食べたり、動けなくなったら心ばいしたり、まるで自分の兄弟のように心がつながっていた。だから、どちらも心のむすびつきがとても強かった。ほかの話でもそうだろう。</p>	

第2学年〇組 (公開授業〇)

5. 本時 (15 / 15) 関連づけて読む

6. 本時の目標

- 主人公のぼくがエルフに対してしたことを、スーホの白い馬でのスーホのしたことと関連づけて読み、人と犬でも心の結びつきができることを読み取ることによって、人と動物の心の結びつきについての見方・考え方を深めることができる。
- 人物の言動を表す叙述から、事柄の順序に気を付けて読む読み方や、場面や人物の様子を想像して読む読み方を活用することができる。

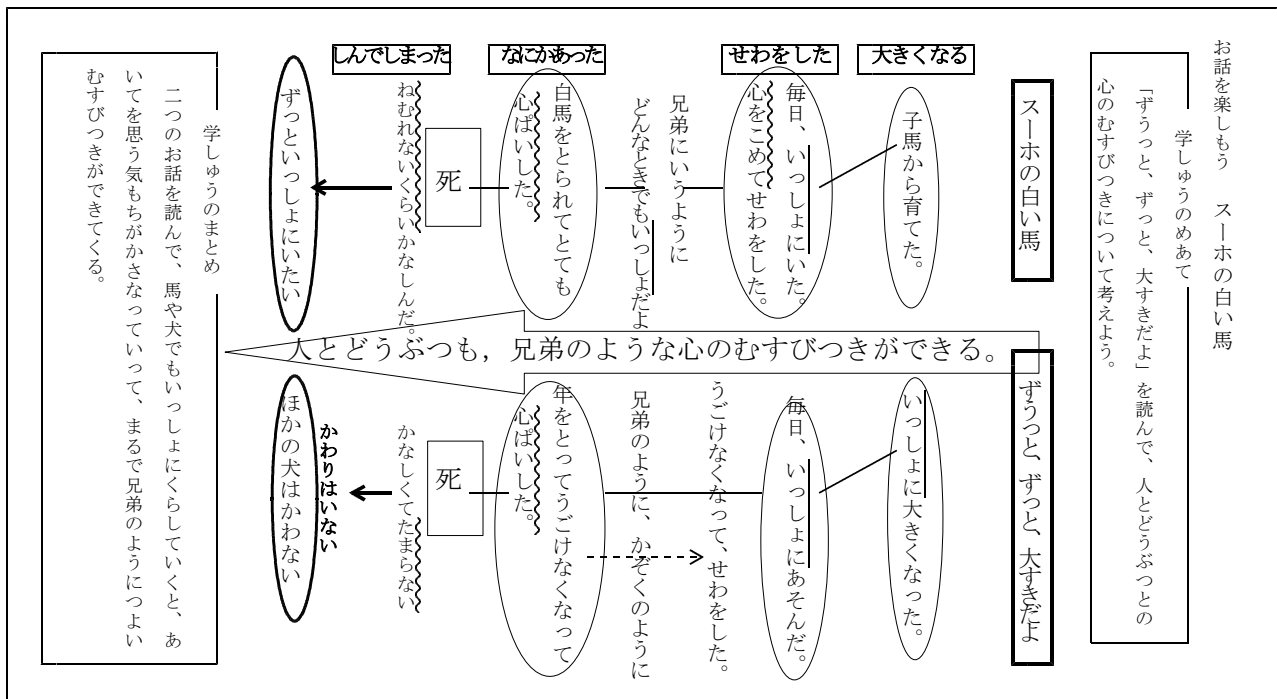
7. 本時指導の考え方

前時までに、子どもたちは、「スーホの白い馬」で死んでからもなおずっと一緒にいたいと願う、スーホ(人)が白馬(動物)を思う深い心の結びつきを読み取る学習を行っている。その際、「大きくなっていくまで」「毎日の暮らし」「何かあったときの思い」「死んだ時の思い」という観点があったことを確認している。

本時は、1年生で学習した、人と動物の心の結びつきが描かれている「ずうっと、ずっと、大すきだよ」において、ずっと一緒にいたいという共通点から、人と動物の関わりの中でも人と人の関わりのような心の結びつきができるということを読み取ることによって、心の結びつきについての見方・考え方を深める学習である。

そのために、まず、スーホが白馬とずっと一緒にいたいと思うようになったのには、どんな心の結びつきがあったのか振り返る。次に、「ずうっと、ずっと、大すきだよ」の挿し絵から心の結びつきが分かるものを選び、叙述にはそれがどのように描かれているのか考えていく。そこで、ぼくとエルフがずっと一緒にいることや、兄弟のように暮らしていることが分かり、スーホの白い馬で学習したことを比べながら考えていくことで、「一緒に大きくなったこと」「毎日一緒にいて、遊んだり、世話をしたりしたこと」「動物の身に何かあったら心配していたこと」「死んだときにはとても悲しかったこと」という共通点から心の結びつきができてきたことを押さえていく。最後に、馬でも犬でも、いつも一緒にいて兄弟のように暮らしていく中で、人と人の関わりのような心の結びつきができるということを書きまとめさせる。

8. 板書計画



9. 本時の展開

学習活動と内容	指導上の留意点（※「関連づけて読む」活動に関して）
<p>1 学習のめあてを確かめる。</p> <p>〈学習のめあて〉</p>	<p>○ 前時までに学習したことから、スーホと白馬の心の結びつきの観点について振り返り、「ずうっと、ずっと、大すきだよ」での心の結びつきについて考えていくことを意識付ける。</p>
<p>「ずうっと、ずっと、大すきだよ」を読んで、人と動物の心の結びつきについて考えよう。</p>	
<p>2 「ずうっと、ずっと、大すきだよ」を読み、ぼくとエルフの心の結びつきについて話し合う。</p> <p>(1) スーホの白い馬と同じように、心の結びつきが分かる挿し絵を選ぶ。</p> <p>(2) 叙述の中のどの言葉から心の結びつきが分かるのか考え、結びつきが分かるわけを話し合う。</p> <p>○ 「大きくなっていくまで」という観点から、心の結びつきをとらえること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いっしょに大きくなった。(叙述から) ・ いっしょに暮らしている。(挿し絵から) <p>○ 「毎日の暮らし」という観点から、心の結びつきをとらえること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ あったかいおなかをいつもまくらにする。 ・ いっしょにゆめを見た。 ・ ぼくの犬 <p>○ 「何かあったときの思い」という観点から、心の結びつきをとらえること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年をとってうごかなくなってきた。 ・ ぼくのへやでねなくちゃいけない。 <p>○ 「死んだ時の思い」という観点から、心の結びつきをとらえること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ かたをだきあった。 ・ かなしくてたまらなかった。 	<p>○ 4つの観点を基に、自分が結びつきがあると気付いた挿し絵を発表させる。</p> <p>○ 観点をもって挿し絵を読むことで、いつも一緒に兄弟のように過ごしていることに気付かせる。</p> <p>○ 挿し絵と叙述をつないで、ぼくとエルフが小さいときから兄弟のように一緒に大きくなっていることを読み取らせる。</p> <p>○ ぼくとエルフがしていることを自分たちの生活とつないで、飼犬というより兄弟のように接していることを読み取らせる。</p> <p>○ 階段を上れなくなっても、かかえて連れて行くほど一緒にいようとしているところから、ぼくの思いを考えさせる。</p> <p>○ 悲しくてたまらなくなったり、ずっと忘れられなかったりしている悲しみの様子を読むことで心の結びつきの強さを読み取らせる。</p>
<p>3 人と動物の心の結びつきについて分かったことを話し合う。</p> <p>○ ぼくはエルフといつも一緒にいて、喜んだり、心配したりしていることを理解すること</p>	<p>※ 板書をもとに、「スーホの白い馬」と「ずうっと、ずっと、大すきだよ」を比べた共通点から、人と動物の心の結びつきについての自分の考えを発表させる。</p>
<p>4 本時学習のまとめをする。</p> <p>(1) 本時で読み深め・確かめたことを振り返り、分かったことを書きまとめる。</p> <p>○ 2つの教材の共通点から、心のつながりについてとらえること</p>	<p>※ 人と動物でも、一緒に生活をしていく中での日々の思いの重なりから、人と人の関わりのような心の結びつきができるということをもとめる。</p>
<p>「スーホの白い馬」でスーホが白馬のことを兄弟のように大切に思っているように、「ずうっと、ずっと、大すきだよ」でも、ぼくとエルフが小さいころからいっしょにくらしてきて、話しかけたり、心ばいしたり、とても悲しんだりしている。わたしが、いもうとにしているようなこともして、まるで兄弟のように心がつながっている。だから、人とどうぶつも人間のように心のむすびつきができる。</p>	
<p>(2) 本時で使った読み方のまとめをする。</p> <p>○ 事柄の順序に気を付けて読む</p> <p>○ 場面や人物の様子を想像して読む</p>	<p>※ 本時で使った読み方を振り返り、「読み方の種」としてまとめる。</p>

第2学年〇組 (公開授業〇)

5. 本時 (10 / 15) 基礎・基本

6. 本時の目標

- ひどい傷を受けながらも、家へ戻ってきた白馬の様子や、白馬にささっている矢を抜くスーホの気持ちを読み取り、スーホと白馬の心の結びつきをとらえることができる。
- 「走って、走って」という繰り返しの言葉を読む読み方や、「うちの白馬」と「白馬、ぼくの白馬」の言葉を比べて読む読み方を身に付けることができる。

7. 本時指導の考え方

前時までに、子どもたちは、スーホがしたことから白馬への思いや、白馬の様子からスーホへの思いを読み取り、互いの心の結びつきを読み確かめている。

本時は、とのさまから命がけで逃げてきた白馬を見て、矢を抜く時のスーホの気持ちを読み取り、スーホと白馬の心の結びつきの深さを読み確かめる学習である。

そのために、まず、酒盛りの場から逃げ出した白馬の様子を想起し、白馬はどうなっていくのかという、本時のめあてを確認する。次に、白馬が戻ってきた時にスーホが跳ね起き、白馬のもとへかけて行ったことから、白馬に会える喜びやずっと心配していた気持ちに気付かせる。そして、「矢が何本もつきささり」や「あせがたきのようながれおちて」という叙述から、白馬がひどく傷を受けている様子を思い描かせ、それでも長い時間ずっと走り続けて、スーホのもとへ戻ってきた様子を読み取らせる。また、そんな白馬を助けたいと思うスーホの気持ちを、歯を食いしばりながら矢を抜く様子から考え、吹き出しに書かせる。その後、「うちの白馬」と「ぼくの白馬」の意味の違いを考えて、「白馬、ぼくの白馬、しなないでおくれ。」と、スーホがどんな気持ちで言ったのかを発表させる。最後に、命が消えていく白馬とそれを見守るスーホの様子を読み取り、二人の心の結びつきを読み確かめる。

8. 板書計画

お話を楽しもう

スーホの白い馬

学しゅうのめあて
はを食いしばりながら、白馬にささっている矢をぬくスーホのようすをくわしく読みとり、スーホの白馬への思いを読みたしかめよう。

そのばん
白馬がにげた日のよる

「白馬だよ。うちの白馬だよ。」
がばことおきて
走って

スーホははねおきてかけていきました。

けれど、その体には、矢が何本もつきささり、
あせが、たきのようながれおちています。
白馬はひどいきずをうけながら、
ものすごく長いまわりを、休まずに走って
走って、走って、走り続けて、
大すきなスーホのところへ帰ってきたのです。

スーホは、はを食いしばりながら
白馬にささっている矢をぬきました。
きず口からは、血がふき出しました。

「白馬、ぼくの白馬、しなないでおくれ。」
はなれられない
ぼくだけの
だれよりも大じな
ことばをくべて読め
お前はだれよりも大じなんだよ、だからしなないで

でも、白馬は、弱りはてていました。
いきは、だんだん細くなり、目の光もきえていきました。
学しゅうのまとめ
今日のスーホはね、白馬がかえってきたけれど、何本も矢がささっているのを見ておどろいたんだよ。そして、大切な白馬にささっている矢をぬきながら、スーホは、くやし気もちやとてもかなしい気もちでいっぱいだったんだよ。

・ よろこんでいる
・ おどろいている
・ すっとしんばいしていたから、うれしい
・ 早く会いたい

・ いたいだろう
・ くやし
・ ひどいけがをしても帰ってきてくれたんだね
・ しんだらいやだよ
・ 血が止まらないよ
・ くやし
・ もうはなれたくないのに
・ すつといつしよにいたいんだよ
・ お前はだれよりも大じなんだよ、だからしなないで

・ ないた
・ すごそほはいた
・ さすつてあげた
・ 白馬に話しかけた

おおつか ゆうぞう

9. 本時の展開

学習活動と内容	指導上の留意点(◎基礎・基本の重点)
<p>1 本時のめあてを確認する。</p> <p>〈学習のめあて〉 はを食いしばりながら、白馬にささっている矢をぬくスーホのようすをくわしく読みとり、スーホの白馬への思いを読みたしかめよう。</p>	<p>○ 白馬がとのさまから逃げた様子を想起し、本時学習への意欲をもたせる。</p>
<p>2 本時場面を音読する。</p> <p>3 白馬が戻ってきたと知った時の、スーホの気持ちを話し合う。</p> <p>○ 白馬に会える喜びと、ずっと心配していた気持ちに気付かせること</p> <p>4 戻ってきた白馬を助けようとするスーホの気持ちを話し合う。</p> <p>(1) 帰ってきた白馬の様子を話し合う。</p> <p>○ 苦しい状態で長い時間走ってきたことから、必死にスーホのところへもどってきた様子を読み取ること</p> <p>(2) 白馬に刺さった矢を、歯を食いしばりながら抜くスーホの気持ちを、吹き出しに書いて話し合う。</p> <p>○ 必死に帰ってきた白馬の様子を見た、スーホの思いを読み取ること</p> <p>(3)「しなないでおくれ」というスーホの言葉を音読し、どんな気持ちで言ったのかを考える。</p> <p>○ スーホにとって、白馬は兄弟のように大切な存在であることを読み取ること</p>	<p>○ スーホのしたことに気を付けながら音読させる。</p> <p>○ 「はねおきる」と「おきる」を比べて読み、スーホの気持ちを考えさせる。</p> <p>○ 競馬の大会の場面で、白馬と別れてからスーホがずっと心配していたこととつないで、スーホの気持ちの高まりを読ませる。</p> <p>◎ 「矢が何本も」や「たきのように」、「走って、走って」などの叙述から、白馬の傷がひどいことや、それでも必死にスーホの所へ戻ってきたことを考えさせる。</p> <p>○ 白馬のひどい傷を何とかしたいと思った、スーホの気持ちを想像させる。</p> <p>◎ 繰り返しの言葉や、「うちの白馬」と「ぼくの白馬」の意味の違いを考えて読み、スーホがどんな気持ちで言ったのかを発表させる。</p>
<p>・ ちがとまらないよ。どうしたらいいんだろう。くやしい。</p> <p>・ もう、はなれたくないのに。 ・ ずっといっしょにいたいんだよ。</p> <p>・ おまえはだれよりも大じなんだよ。だからしなないで。</p>	
<p>(4) 白馬の命が消えていく間、スーホがしたことを話し合う。</p> <p>○ 白馬のスーホへの思いと、白馬を助けようとするスーホの思いから、スーホはずっと白馬のそばにいて、見守っていたことを読み取ること</p>	<p>○ 弱りはてた白馬に対して、スーホがどんなことをしながらそばにいたのかを、想像させる。</p>
<p>5 本時学習を振り返り、まとめる。</p> <p>(1) スーホの白馬に対する思いを、本時の学習のまとめに書き、発表する。</p> <p>○ 兄弟のように大切な存在の白馬が死んでいく悲しさや、少しでも痛みを和らげたいという気持ちを読み取ること</p>	<p>○ うまくまとめられない子どもに対しては、板書を見ながら本時を振り返り、書きまとめさせる。</p>
<p>今日のスーホはね、何日もはなれていた白馬が帰ってきたけれど、体じゅうに何本も矢がささったり、あせがどんどんながれたりしているようすを見ておどろいたんだよ。そして、矢をぬきながら、大事な白馬がひどくきずついていることがくやしくて、とてもかなしい気持ちでいっぱいだったんだよ。</p>	
<p>(2) 本時で学んだ読み方についてまとめる。</p> <p>○ 言葉を比べて読む</p> <p>○ くり返しの言葉を読む読み方</p>	<p>◎ 板書を使って本時の学習を振り返り、掲示している「読み方の種」とつないでまとめる。</p>

第2学年〇組 (公開授業〇)

5. 本時 (10 / 15) 基礎・基本

6. 本時の目標

- ひどい傷を受けながらも、家へ戻ってきた白馬の様子や、白馬にささっている矢を抜くスーホの思いを読み取り、スーホと白馬の心の結びつきを読み確かめることができる。
- 「走って、走って」という繰り返しの言葉の読み方や、「うちの白馬」と「白馬、ぼくの白馬。」の言葉を比べて読む読み方を身に付けることができる。

7. 本時指導の考え方

前時までに、子どもたちは、スーホのしたことから、スーホの白馬への思いと、白馬の行動を読み取り、互いの心の結びつきを読み確かめている。

本時は、とのさまから命がけで逃げてきた白馬を見て矢を抜く時のスーホの思いを読み取り、スーホと白馬の心の結びつきの深さを読み確かめる学習である。

そのために、まず、酒盛りの場から逃げ出した白馬の様子を想起し、その後の白馬はどうなっていくのかと、本時へのめあてを確認する。本時は「逃げ出したそのぼん」なので、数時間が経過していることを押さえる。次に、外で音がしてから白馬のもとへかけていくまでにスーホが急いでいる様子から、白馬に会えるという思いの高まりを読み取る。その際、「おきる」と「はねおきる」の違いを比べ、急いで起きたことから、スーホが白馬をずっと心配していたことに気付かせる。そして、矢が何本も突き刺さった状態で走り続けた白馬の様子を読んでいく。「あせがたきのようにながれおちて」や「走って、走って、走り続けて」といった叙述から、白馬は数時間休み無く走り続けたことや、スーホのもとへ戻ってきたことに気付かせる。そして、そんな白馬を何とかしたいと思うスーホの思いを、歯を食いしばりながら矢を抜く様子を考えさせる。また、「白馬、ぼくの白馬、しなないでおくれ。」と白馬を繰り返していること、「ぼくの白馬」と狼を追い払った後の「兄弟に言うように」を比べることで、スーホの思いはますます深まり、兄弟以上に大切な存在になっていることに気付かせる。最後に、白馬の命が消えていく様子を読み取り、それを見守るスーホの様子を考えさせる。

8. 板書計画

お話を楽しもう

スーホの白い馬

おつか ゆうぞう

そのぼん

白馬がにげた日による

「白馬だよ。うちの白馬だよ。」

がはーとおきて

スーホははねおきて

かけていきました。

走って

早く会いたい

学しゆうのめあて

はを食いしばりながら、白馬にささっている矢をぬくスーホのようすをくわしく読みとりスーホの白馬への思いを読みたしかめよう。

よろこんでいる

おどろいている

ずっとしんばいしていたから、うれしい。

あせが、たきのようにながれおちています。

白馬はひどいきずをうけながら、

ものしりて長いきずを、休まずに走って

走って、走って、走り続けて、

大きなスーホのところへ帰ってきたのです。

スーホは、はを食いしばりながら

白馬にささっている矢をぬきました。

きず口からは、血がふき出しました。

はなれぬかない

ぼくだけの

だれよりも大じな

きょうだいより大じな

血が止まらないよ。くやしい。

もちはなれたくないのに。

ずっといっしょにいたいんだよ。

お前はだれよりも大じなんだよ。だからしなないで。

いたいだろう。

ひどいけがをしても、帰って

きくれたんだ。ありがとう。

しんだらやだよ。

「白馬、ぼくの白馬、しなないでおくれ。」

でも、白馬は、弱りはてていました。

いきは、だんだん細くなり、目の光もきえていきました。

今日の学しゆうで

今日のスーホはね、

ないた。

ずっとそばにいた。

さすってあげた。

白馬に話しかけた

9. 本時の展開

学習活動と内容	指導上の留意点(◎基礎・基本の重点)
1 本時のめあてを確認する。 〈学習のめあて〉	<input type="checkbox"/> 白馬がどのさまから逃げた様子を想起し、本時学習への意欲をもたせる。
はを食いしばりながら、白馬にささっている矢をぬくスーホのようすをくわしく読みとり、スーホの白馬への思いを読みたしかめよう。	
2 本時場面を音読する。 3 白馬が戻ってきた時の様子を読み取る (1) いそいで白馬のところへ行く様子から、スーホの思いを考える。 <input type="checkbox"/> 驚いている。 <input type="checkbox"/> ずっと心配していたからうれしい。 <input type="checkbox"/> 早く会いたい。 <input type="checkbox"/> 喜んでいいる。 (2) 戻ってきた白馬の様子から、分かることを発表する。 <input type="checkbox"/> 矢が何本も突き刺さっている。 <input type="checkbox"/> 汗が滝のように流れている。 <input type="checkbox"/> 血が勢いよく出ている。 <input type="checkbox"/> 傷がたくさんある。 4 歯を食いしばりながら矢を抜くスーホの様子から、その時の思いを読み取る。 (1) 矢を抜くスーホの様子から、思いを考える。 <input type="checkbox"/> いただろう。 <input type="checkbox"/> なかなか抜けないよ。 <input type="checkbox"/> 血が止まらない。どうしたらいいんだろう。 (2) 死なないでくれと言ったスーホの思いを考える。	<input type="checkbox"/> スーホのしたことや白馬の様子を表す言葉に気をつけて音読させる。 <input type="checkbox"/> 「はねおきる」と「おきる」を比べて読み、スーホの思いを考えさせる。 <input type="checkbox"/> 5の場面でスーホが心配していたこととつなげて、スーホの思いの高まりを読み取らせる。 <input type="checkbox"/> 叙述と挿し絵をつないで読み、白馬の様子を読み取らせる。 <input type="checkbox"/> 「つきささる」と「ささる」を比べたり、「何本も」という叙述から様子を考えたりすることで白馬のけがの深さを読ませる。 <input type="checkbox"/> 「たきのように」という例えや、「走って、走って」という繰り返しの叙述から、休み無く何時間も走り続けたことに気付かせる。 <input type="checkbox"/> 動作化をさせることで、スーホの気持ちを想像しやすくする。 <input type="checkbox"/> 「ふき出す」と「出る」を比べて読み、傷の深さに気付かせる。 ◎ 繰り返しの言葉やぼくの白馬と呼びかけるところから、思いを考えさせる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ どうしても血が止まらないよ。どうしたらいいんだろう。くやしい。 ・ もう離れるのは嫌だよ。 ・ お前は誰よりも大事なんだよ。だから死なないでくれ。 	
(3) 白馬の命が消えていく様子を読み取り、スーホがしたことを考える。 <input type="checkbox"/> ずっと泣いている。 <input type="checkbox"/> 白馬の体をなでている。 <input type="checkbox"/> ずっと白馬のそばにいてはなれない。 <input type="checkbox"/> 白馬に話しかけている。	<input type="checkbox"/> 「だんだん」という言葉から、命が消えていくまでの時間を考え、その間のスーホがしたことを想像させる。
5 本時学習を振り返り、まとめる。 (1) スーホの白馬に対する思いを、学習のまとめに書きまとめ、発表する。 (2) 本時で学んだ読み方についてまとめる。 <input type="checkbox"/> 言葉ははずして読む <input type="checkbox"/> 繰り返しを読む	<input type="checkbox"/> うまくまとめられない子どもに対しては、板書を見ながら本時を振り返り、書きまとめさせる。 <input type="checkbox"/> 板書を使って本時の学習を振り返り、掲示している「読み方の種」とつないでまとめる。

☆「読み」と「考え、感想」については使い分けて書いてください。

「読み」 → 文章中の叙述をもとにした解釈や読み取り。

(子どもが書きまとめた予見、読み深め・確かめの書き込みなど)

「考え、感想」 → 文章を読んだり学習をしたりして考えたことや思ったこと。

(読みのまとめでの「白鷹さんの考えについて」や「戦争や平和について考えたこと」や「三年とうげのおもしろかったところ」「松井さんへのお手紙」など)